

平成29年度学校自己評価システムシート (県立児玉高等学校)

目指す学校像	生徒の可能性を伸ばし、「知」「徳」「体」のバランスのとれた生徒を育成し、進路希望を実現させる、地域に根ざした学校
--------	--

重点目標	1 学習指導の工夫により、主体的に学習活動に取り組む態度を養い、基礎学力を向上させる。 2 開かれた学校づくりを充実させ、地域から信頼され愛される学校を実現する。 3 学校行事や部活動をととして学校を活性化し、基本的生活習慣と規範意識を向上させる。 4 キャリア教育を充実させ、生徒の主体的な進路選択を支援し、進路希望を実現させる。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 9 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	・生徒の学習意欲や基礎学力に差があり、学習活動に不安を抱える生徒も存在し、学習指導の継続的な工夫が必要である。わかりやすい授業を実践し、学習習慣を身につかせ、生徒の自信や達成感を育み、学習内容を確実に定着させることが課題である。	・基礎学力を向上させる。	①各教科による授業の工夫・改善(通年) ②管理職や教員相互による授業観察(年2回) ③学習サポーター活用や補習指導(通年) ④課題テスト(年3回)、一般常識テスト(年2回)の実施 ⑤各種検定受験の積極的な働きかけ(通年) ⑥「学び直し」や「進路選択」を考慮した教育課程の編成	①1学年2学期末評定平均:3.0以上(昨年3.02)/成績優良者と不良者の前年比10%向上、10%減少(昨年23.9%減少、15.1%減少) ②生徒アンケート「わかりやすい授業」肯定70%以上(昨年66.1%) ③学習サポーター活用日数/生徒アンケート「補習体制の充実」肯定80%以上(昨年76.5%) ④課題テスト、一般常識テストの平均点 ⑤各種検定試験の受験者数 ⑥教育課程における授業展開の工夫	①評定平均3.12(←3.02)成績優良者と不良者の前年比40%向上58.1%減少(←23.9%減少15.1%減少) ②「わかりやすい授業」肯定58.5%(←66.1%) ③学習サポーター活用日数87日「補習体制の充実」肯定65%(←66.1%) ④課題テスト1年:国56.9数40英44.6/2年:国45.3数41英31.8/3年:国45.7数43英58.1、一般常識テスト1年:48.4/2年:48.5/3年:42.8 ⑤商業系検定試験に延べ236名合格 ⑥次年度は数学の習熟度授業、社会、理科の少人数授業を新規に展開	B	・「学び直し」に加え基礎学力と進学に対応する学力の定着を目指す学習指導・学習活動の展開 ・生徒の進路選択を踏まえた教育課程の編成 ・生徒の資格取得に向けた検定試験の効果的実施
2	・学校の様子が地域社会に十分に浸透していない現状があり、学校の取組を正確に理解してもらう必要がある。教育活動の積極的な情報発信や地域社会との交流事業等を更に充実、継続、発展させて、開かれた学校づくりを充実させることが課題である。	・学校と地域社会、地元小中学校や保護者等との相互理解を深めて地域から信頼され愛される学校を実現する。	①HP更新、一斉配信メール活用や地元報道機関と連携した学校情報の積極的発信(通年) ②「児玉高校だより」の地域への回覧(年6回) ③地元小中学校との交流事業の推進(通年) ④地域活動への積極的な生徒派遣(通年) ⑤PTA・後援会・同窓会との連携(通年) ⑥学校説明会、進学相談会や中学校訪問の工夫・改善(年10回)	①HP更新回数(昨年1.42回/1日)及びアクセス数/保護者アンケート「情報提供を積極的に行っている」肯定70%以上(昨年60.5%) ②回覧を年6回以上実施(昨年5回) ③地元小中学校との交流事業等を年8日間以上実施(昨年8日間) ④地域活動への参加回数 ⑤PTA等の学校行事への参加回数 ⑥学校説明会等の参加者数500名以上(昨年491名)	①HP238回更新及び59万回アクセス達成(1/25現在)/「情報提供を積極的に行っている」肯定57.5%(←60.5%)否定23.6%(←39.5%) ②児玉高校だより5、7、8、9、10、12、3月号の7回を回覧 ③児玉小学校と陸上部、学習ボランティア、サッカー部、バス部が計11日間交流 ④地域ふれあい事業(秋山公民館)に吹奏楽部が半日参加 ⑤バスケット販売(8月除く毎月)11/1~10日の課業日に校門指導実施 ⑥学校説明会等参加者計167名(←491名)	B	・地域社会への教育活動の効果的な発信 ・地域社会における生徒のボランティア活動の推進 ・中学校との教育活動を通しての連携 ・生徒募集に係る学校説明会等の運営の工夫
3	・長年粘り強く取り組んでいる生徒指導に成果が現れている。生徒指導の成果を更に上げると共に、学校行事や部活動を充実させて学校全体を活性化し、社会の一員として自己実現を図ることのできる生徒の育成が課題である。	・基本的生活習慣と規範意識を向上させる。	①学年集会(毎月)、全校集会(定期的)の実施 ②整容指導の徹底(通年) ③定期的な登校・下校指導、遅刻指導や校内巡視の実施(通年) ④生徒会による学校行事の活性化(通年) ⑤部活動の活性化(通年)	①学年集会、全校集会の実施回数 ②生徒アンケート「生徒指導が積極的」肯定90%以上(昨年90.1%) ③遅刻回数(1・2学期)の昨年度比5%減少(昨年3.5%減少) ④生徒アンケート「学校行事が充実」肯定80%以上(昨年73.4%) ⑤部活動参加者数及び大会等の成果	①学年集会8月除く毎月実施、全校集会1・2学期に各1回新規に実施 ②「生徒指導が積極的」肯定87.6%(←90.1%)否定8.7%(←9.9%) ③遅刻回数昨年度比46.2%(←3.6%)減少 ④「学校行事充実」肯定64.1%(←73.4%)否定30.9%(←26.6%) ⑤部活動参加者数147名40%(9/11現在)、柔道部女子関東大会出場	A	・整容指導の徹底による制服や自転車マナー等の規範意識の育成 ・効果的な遅刻指導による遅刻者の減少 ・部活動の活性化
4	・将来の進路に関心の高い生徒が大多数であり、生徒の主体的な進路選択への支援が必要である。就労体験活動を含むキャリア教育や段階的な進路指導を実施して、生徒の自己理解を深め進路を選択決定させることが課題である。	・生徒全員の進路希望を実現させる。	①就労体験活動の計画的実施(通年) ②進路指導部と学年との連携(通年)進路指導のしおり「メソ」の活用(通年) ③進路行事の計画的実施(通年) ④就職支援アドバイザーの活用(通年) ⑤ハローワーク等の外部機関との連携(通年) ⑥高大連携事業の積極的活用(通年)	①生徒アンケート「就労体験は充実」肯定95%以上(昨年度95.4%)/中途退学者の減少(前年度比10%減)(昨年19%増加) ②生徒・保護者アンケート「進路指導はきめ細やか」肯定70%以上(昨年59.0%) ③進路行事の計画的遂行 ④就職支援アドバイザーの活用日数 ⑤学校を通しての就職希望者の就職率 ⑥高大連携事業の実施回数(昨年3回)	①「就労体験は充実」肯定94.7%(←95.4%)/中途退学者数前年度比74%減少(←19%増加) ②③「進路指導はきめ細やか」肯定56.9%(←59.0%)否定31.3%(←43.5%)進路行事計画完全実施 ④就職支援アドバイザー活用日数17日 ⑤就職希望者45名/45名が決定 ⑥高大連携回数1回(PTA講演会)連携大学の指定校推薦決定者1名	A	・就労体験事業を通しての生徒の自己理解の深化 ・系統的、組織的な進路指導・キャリア教育の推進 ・進学希望者に向けての進路指導体制の充実

学校関係者評価
実施日 平成30年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングが課題である。 ・効果的な授業展開に向け授業環境の整備をする。 ・勉強が楽しくなるように指導する。 ・検定試験合格者が多くてよい。検定試験受験をさらに勧める。 ・生徒の思いや希望を書かせる。 ・学習サポーターの活用はとも良い。 ・授業の工夫を感じる。 ・授業での先生と生徒の雰囲気が良い。 ・取り組みに対して成果が上がっていることがよくわかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に児玉高校を知ってもらおう。 ・学校の現状、教育活動の様子を多くの人に効果的に発信する ・QRコードを使って、児玉高校の良いところを動画でアピールする。 ・中学校教員への学校説明を行う。 ・清掃活動で中高で連携する。 ・児玉中学校と連携する。 ・災害があったときのために、消防署とタイアップする。 ・地元小学校へのサポートはありがたい ・地域社会のゴミ拾いに感謝している。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が学校をアピールする。 ・行事の運営・取り組み方等、中学校の生徒会と交流ができるといい。 ・生徒自身が自分たちの学校を誇りに思えるようになってほしい。 ・部活動がもう少し盛んになればいい。 ・普通科の生徒も部活動に入りたいと思われる学校になってほしい
<ul style="list-style-type: none"> ・同窓生(地元の経営者等)や地域住民を巻き込んで教育活動を行う。いろいろな人を巻き込むことで、何かが変わる可能性がある。 ・地元商工会議所と連携を深め、教育活動に反映させる。 ・検定試験合格者が多くてよい。履歴書に記載することで、生徒の意欲を感じることができる。

